

「消化器内視鏡（全3巻） ①食道・胃・十二指腸球部」

東海大学教授 三 輪 剛 編集

北里大学教授

岡 部 治 弥

本書は全3巻中のI巻で上部消化管を対象としたものであり、B5判総頁数索引を加えて238頁と割に薄い仕上がりのものである。しかし、その目次を見ると、実に多くのことが取り上げられている。“上部消化管内視鏡検査のすべて”と言えそうである。本の厚みからみても、各項目が要領よく簡潔に纏められていることが推察できる。

目次に沿って内容を簡単に紹介してみよう。第I章は、局所解剖、ファイバースコープ挿入に際しての注意が書き添えられている。第II章は検査法および治療法であるが、上部消化管内視鏡検査法のほとんどすべておよび内視鏡的治療法が記されている。まず“患者指導”、“器具の選択”から始まり、“挿入法”を経て、“各種検査法”が生検、ポリペ

クトミー、緊急内視鏡に次いで、治療として止血法とその効果が詳細に述べられている。食道については別個に静脈瘤硬化療法がこれもかなり詳細に記されている。

第II章には特殊内視鏡検査として色素内視鏡、機能内視鏡検査法が取り上げられているが現在までのあらゆる機能検査法が要領よくまとめられている。

最後の第IV章は“診断のすゝめ方”として食道から十二指腸球部までの各種疾患の診断および鑑別診断について、多数のカラー写真と共に各執筆者が力筆をふるっている。

さて、ここで編者による序文を要約して示すと、まず“消化器内視鏡”と本書の題名を付した所以として“消化器内視鏡は今や診断から治療まで広い範囲の臨床的应用が行わ

れており、消化器病学の基本であり、必須の技術でもあり、現在消化器病学の診療そのものである。今や独立の診療科としてもおかしくない”とうたっている。

そして、本書は初心者のための入門書としてのみでなく、専門書への入口としての研修に役立つ程度の技術解説と理論的裏付けを持った内容と心掛けて企画した。食道に関しては静脈瘤硬化療法、胃に関しては内視鏡止血法が新しいテキストの内容、そのほか Laserthermia など最新の内視鏡の進歩も記載した。超音波内視鏡やビデオ内視鏡は現段階では本書に必ずしもふさわしくない。十分な評価が得られた時点で改訂、追補をすることになろう、と記してある。

通読した感じは、上記編者の意図と企画に各執筆者がよく応えた成功した本であると言えよう。多くの項目が、超音波とビデオ内視鏡を除き、ほとんどあます所なく、取り上げられ要領よく纏められている。消化器内視鏡を行うものの必携の書 Vademecum であると言えよう。

B5判 248頁 24,000円 送料400円
1987年

医学書院 刊